

巻頭言

名は体を表す

CNCP副代表理事 花村 義久



この度、2年間のシビルNPO連絡協議会の活動を通して、NPO法人「シビルNPO連携プラットフォーム」が生まれました。名は体を表すと言いますが、今の段階では、名が体を表しているようにしたい、と云うところでしょうか。この組織では、名前にある4つのキーワード「シビル」「NPO」「連携」「プラットフォーム」が、その性質をあらわしていると言えます。

「シビル」我々の世界ではシビルエンジニアリングとして親しまれているものです。土木工学の本質をよく表しています。でも、一般の人にはこれは何だろうと思えてくるかも知れません。市民が前面に出る時代、その中でNPOや市民活動に参加するような方々には、「CML」から、市民の、民間の、民間人のだとか、シビリアン、シビルミニマム、シビリアンコントロール、シビルゼーションだとか、想像されると思います。特定非営利活動組織「NPO」、我々はメンバーの対象としてNPO法人だけに限定しているわけではなく、一般社団法人、公益社団法人にも参加したいと考えています。とはいえ、公益性を追求する集団として、新たに大きく開かれた時代の推進力になって来たNPOは、我々の活動の中心的存在であります。

「連携」、内部では、会員間の連携、地域での連携(地域内、地域間)、地域と中央との連携などがありますが、ここでは外部も含めた様々な主体間の連携、NPOと行政との連携、企業、大学、学会との連携などで、そこからいろいろな可能性を生み出そうと言うものです。人的、技術的、資金的資源活用などの連携によって、問題の解決を図り、あるいは相乗効果を生み、そして新しいものを生み出すことが出来ます。連携は、必要になった時に必要な形で行うというものなので、タイムリーに実現出来るようにすべきであり、我々はそのネットワーク的、協働的連携を促進する役割を担っていることとなります。

「プラットフォーム」と云う言葉は、自治体の中間支援組織ではあまり使われず、センターとか、その性質によってはネットワークとかが使われています。一般には最近では、モノづくり支援プラットフォームとか地域プラットフォーム、戦略的プラットフォームなど様々な使い方がされています。その中で共通しているのは、事業を成功させるにはしっかりしたビジョンとスタンスを持つプラットフォームが重要であるということです。それは分野ごとに特化されており、我々の場合も事業を行う上で心しなければならぬのだと思います。

我々は、一市民として専門家として幅広い見識と高度な技術でもって、時代が求める新たな世界を追求し(シビル)、新しいシステム・体制を確立し(NPO)、共感し合う仲間や周辺の人びと力を合わせて切り拓く(連携)、そんな場を戦略的に作り実践する(プラットフォーム)、この名称は、そんなメッセージを発しているのでしょうか。

気仙沼の防潮堤に寄せて

CNCP理事(特活)NPO 研修・情報センター代表理事

世古 一穂

気仙沼のまちづくりには20年来かかわってきた。市民参加のまちづくりの講座やワークショップをして人材養成をしてきた。

3.11 で気仙沼は甚大な被害を受けた。

高さ15メートルの防潮堤を造る案が国、県からだされた。20年来やってきた人材養成の成果がでたのはこの時だった。



「海と生きる！」をスローガンにしてきた講座の修了生たちは「防潮堤を勉強する会」をたちあげ、全国から、防潮堤や復興まちづくりの専門家を呼んで県や国の行政の人々にも参加してもらい、3カ月で15回にわたる密度の濃い勉強会をおこなった。

反対、賛成で対立するのではなく、終始中立的な態度で会議を進めた。気仙沼の内湾地区では当初、県が示した防潮堤の高さは6.2メートルだったが、勉強会でしっかり勉強した住民たちは、県と話し合いを重ね、2014年3月4.1メートルの防潮堤の上に可動式の1メートルの防潮扉を設置する案が採用された。

内湾地区復興まちづくり協議会会長で、人材養成講座の修了生の菅原昭彦さんは「時間はかかったが、海とどう向き合うが、住民が真剣に考える土台ができた」と話している。



CNCPでも、是非、住民と行政の間にたってコーディネートできる人材養成講座が必要だと思う。特に土木の分野ではコンサルタントがそういう役割を担っているがコンサルタントはお金を出す側、多くは行政の側に立っていて中立的なコーディネーターにはなれていないのが、現実ではないだろうか？

CNCPが、土木やまちづくりのNPOをつなぐNPOならば、中立的なコーディネート能力が不可欠だ。CNCPで、会員NPO向けのコーディネーター養成事業を実施できるならプロジェクトチームを作って実施していければと思う。

◆ 会員紹介 1

一般社団法人 未来のまち・交通・鉄道を構想するプラットフォーム

当プラットフォームは、鉄道建設技術者が核となっていますが、基本はワークショップにより、自ら考え互いに議論することをモットーに活動しています。また、産学官の若手の交流を重要なテーマにしています。名称は、鉄道を考える前に交通を考える、交通を考える前にまちを考える、大局的に考えることから始めて、鉄道計画に至るという流れを表しています。

【設立趣意】

◇ 我が国をとりまく背景や課題

社会資本への充足感や公共事業への批判から、真に必要なプロジェクトへの熱意が低下している。また情報化・国際化に対応する未来の社会資本整備について、そのあり方を原点から見直す必要がある。世界を見ると、環境に対する意識が強まる中、公共交通を中心としたまちづくりへの機運が高まっている。一方、基幹的な交通網が整備されている我が国では、長期的な視点でのプロジェクト議論が停滞している。加えて、技術の過程がブラックボックス化し過度なアウトソーシングが進行し、若者の物づくり離れ、技術離れが進行している。

◇ これらさまざまな課題を解決するために

産官学、現職OBといった壁を越えて情報と技術の交流ができる場『プラットフォーム』を構築し、関係各界の有識者が自由に集まりワークショップを行うなど、将来のまち・交通・鉄道プロジェクトをめざして活発な議論を行うとともに、その実施を担うことができる第一線設技術者の技術継承事業などを行う。

【実施している主な事業】

◇ 都市計画・交通インフラ整備に関する議論、調査研究

昨年度は、上野駅周辺整備構想をテーマにワークショップ(WS)を実施。

◇ シンポジウム、フォーラム、講習会、見学会等の開催

昨年度は、森地教授(これからの交通インフラへの展望)や山本会長(大震災からの3年間これからの土木・工学を考える)の講演の他、JR東日本熊本執行役員(東日本大震災によるJR東日本の被害と復旧・復興)の講演会を実施。

◇ 都市・交通・鉄道技術者を育成する研修

昨年度は、首都圏鉄道20年ビジョンと橋本駅改良施工計画の2テーマでWS研修を実施。

◇ その他、海外鉄道プロジェクトへの理解を深める研修や技術交流に関する情報発信

昨年度から会報「プラットフォーム通信」を発行。また国際比較データWSを立ちあげ、PF通信の毎号に国際比較データ2~3例を紹介。

◇ 情報と技術の交流ができる場

【理事等】

会長：山本卓朗

理事：只腰憲久(首都高速道路)

田中滋夫(都市デザイン)

溝畑靖雄(ジェイアール東日本コンサルタンツ)

森地 茂(政策研究大学院大学)

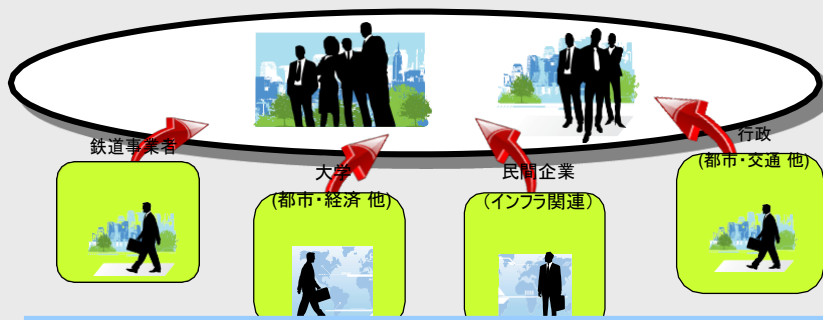
矢島 隆(計量計画研究所)

斉藤 親(東日本旅客鉄道)

金澤 博(大成建設)

土井博己(ジェイアール東日本コンサルタンツ)

幹事：菊田 旭(鉄建建設)



連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 メール：info@miraikoso.or.jp
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28

◆ イベントのご案内

CNCP 設立記念パネルディスカッションのご案内

シビル NPO 事業のマーケット化を目指して

開催日:平成 26 年 8 月 1 日(金)

時 間:14:30~17:00

場 所:土木学会講堂

コーディネーター : 山本 卓朗(CNCP 代表理事)

パネラー : 早瀬 昇(日本 NPO センター代表理事)

植田 和男(日本 PFI/PPP 協会理事長)

辻田 満(CNCP 常務理事)

司 会 : 内藤 堅一(CNCP 事務局長)

ねらい:新しい公共や共助社会の構築に際してシビルNPO が担うべき役割は大きい。そして、事業を行うにあたっては行政、企業、大学等の組織とパートナーシップが極めて重要となる。パートナーシップとはお互いに協働していくことが最も重要であり、互いに依存しあうこととは全く異なる。今後、シビルNPO 事業のマーケット化を目指すためには行政、企業、大学等の組織とシビルNPO が真のパートナーシップの関係を構築して行く為にどう行動していくべきかのパネルディスカッションとなることを狙いとする。

参加費:1,000円 (CNCP 正会員および賛助会員:各1名のみ参加費無料)

※詳細ならびに参加申し込みについてはCNCP のホームページをご覧ください。

<http://npo-cnccp.org/>

NPO 法人社会基盤ライフサイクルマネジメント研究会 第6回「SLIM 放談会」のご案内

住民と共に道直し

開催日:平成 26 年 7 月 15 日(火)

時 間:放談会 15:10~17:00/懇親会 17:30~19:00

場 所:ちよだプラットフォームスクウェア <http://yamori.jp/access/>

東京都千代田区内神田 3-21 TEL03-3233-1511

話題提供:木村 亮 < 京都大学大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻 教授、
NPO 法人「道普請人(ミチフシビト)」理事長

会 費:500円(会場費)

* 参加者は原則としてSLIM 会員とさせていただきますが、これにかかわらずどなたでもご参加いただいて結構です。

* 参加ご希望の方は 松本 SLIM 事務局長 (mmatsumojp@gmail.com) 宛て6月30日までにご連絡いただきますようお願い申し上げます。

NPO 法人 道普請人は、「世界の貧しい人々の暮らしを豊かにするために、自分達の使う道は自分達で直せるという意識を広げたい!」という目標のもと、世界18ヶ国で、土のうを用いて住民と共に雨季でぬかるむ道の補修をしており、活動の有効性は口コミで広がっている。

キーワード:住民参加、簡便技術、住民の気づき、チャリティーからビジネスへ、雇用創出

※ 詳細についてはCNCP のホームページをご覧ください。

<http://npo-cnccp.org/>

事業化推進部門では前身の建設系NPO 連絡協議会における試行事業から得た知見を踏まえて、CNCP をプラットフォームとして行うことで可能となる事業を今後立ち上げて参ります。また、対象とする事業はボランティアではなくソーシャルビジネスとしての事業性、革新性のあるものを目指して取り組んで参ります。



具体的な事業を立ち上げるにあたってのCNCPとしての事業化推進の仕組みとルールを4月、5月の運営会議で審議し「受託業務取扱規程」を制定しました。ここで取り扱っている業務は外部組織からの業務依頼を受けて行う「受託業務」とCNCPが提案して参加者を公募し業務を実施する「提案業務」の2つについて規定しています。

また付則として業務収支予算書作成にあたっての経費内訳および諸経費単価を規定しています。詳しい内容はCNCPのホームページに掲載してありますのでご覧ください。ただし、事業化推進部門に係る公開情報はすべて会員専用IDとパスワードが無ければご覧いただくことが出来ません。

CNCPをプラットフォームとして受託業務および提案業務を行う場合は事業化推進部門担当理事(現在:辻田常務理事)を経て運営会議において審議されたうえで実施に移されます。何か企画案件がある場合は事前に事業化推進部門担当理事にまずはご相談ください。

メールアドレスは(npo.csn@bridge.ocn.ne.jp)です。

事務局通信

1. ホームページを開設しました。 URL:<http://npo-cnnp.org/>
今後、会員のみなさまからの情報も掲載する予定です。
2. 4月30日現在の会員数
法人正会員16、個人正会員18、法人賛助会員13 合計47
3. 会員の募集を行っています。「参加のご案内」「CNCPの概要」と「申込書」は、ホームページに掲載しています。

事務局

お問い合わせは
こちらまで

シビルNPO 連携プラットフォーム
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目 13番地7
名古屋ビル本館2階 コム・ブレイン内
事務局長 内藤 堅一 : info@npo-cnnp.org
ホームページURL : <http://npo-cnnp.org/>

